

高校ラグビーにおける安全性の確保の活動について

ラグビー専門部 埼玉県立大宮高等学校 塩原克幸

○ラグビーにおける重症事故

タックル・ラックにおける重症事故が多い。

重症事故のうち、「タックルをして」「タックルをされて」の場面が全体の約 50%を占める。(2007～2009 年のデータ)

「ラックの場面による」事故は全体の 3 割になる (2010 年)

○頭部・頸部への外傷・障害の予防

正しいタックル・ラックの指導が必要

・生徒への指導

ヘッドキャップの義務化 (1976 年)

マウスガードの義務化 (2006 年) …脳震盪の予防に対してはヘッドキャップの着用よりも効果があるとの報告がある。

※ニュージーランドではヘッドキャップよりもマウスガードの着用を強く義務付けている。

・指導者への指導

安全推進講習会の実施 (3 月と 7 月) 各チーム 1 名以上の受講が義務

※各チーム 1 名以上の出席を義務付けている

○医師や医療従事者との連携

マッチドクター

メディカルスタッフ

地域病院との連携

○脳震盪について (裏面参照)

所見

バランステスト

段階的競技復帰

高校生の復帰は最短でも 3 週間後